

令和5年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

佐世保市立天神小学校



〒857-1174

佐世保市天神1丁目11番13号

校長 松尾 勝則

児童数 324名（17学級）

（令和5年5月1日現在）

1 目的

本校のめざす学校教育目標である「子どもたちと共によく遊び、よく学ぶことにより、知・徳・体の調和のとれた児童を育成する。」の達成を目指す。そのために、次の観点から特色ある学校づくりとしての教育活動を進める。

- (1) 「開かれた学校づくり」の観点から、平和・環境・食育・生き方などのテーマのもと、地域の素材を掘り起こし、「ひと」「もの」「こと」への多様なかかわりの機会を設定する。特に、地域の教育力を活用しながら、主体的に課題を解決していく学習を通して「かかわる力」を高め、他人を思いやる心・美しいものに素直に感動する心・命を尊重する心など豊かな心を育てていくとともに、実際の社会や日常生活の中で活用できる能力を高める。
- (2) 「進んで学ぶ子の育成」の観点から、基礎・基本の確かな定着・学習規律の徹底・個に応じた指導の工夫を図る。特に、本校の学力向上ロードマップをもとに、読解力の育成を図り、書く活動と学び合いを取り入れた授業改善に全職員で取り組む。また、学力向上の取組結果を、年度末の業者テスト導入により検証し、課題を洗い出すとともに、更なる学力向上につなげていく。

2 実践内容

- (1) 「開かれた学校づくり」を目指す活動

○天神じまん（3年・通年・天神町内校区）

「天神じまん」では、天神の人、物、事を中心に、天神のよさや特色を発見する学習を行った。地域の郷土歴史に詳しい講師を招き、一緒に散策しながら、古くからある神社や史跡、石碑の話聞くことで、昔の人の暮らしや神社が作られた背景などに、興味をもつことができた。また、散策を通して、天神校区の地形を知り、天神山から見下ろす佐世保市街の景色もよさであることを実感することができた。これらの活動を通して、児童は自



【天神じまん】

分たちの住む地域のよさについて再確認するとともに、主体的に課題や地域の人達に関わる力を高めることができた。

○佐世保じまん（3年・2学期・佐世保市内）

「佐世保じまん」では、佐世保の人、物、場所など、佐世保の魅力を発見する学習を行った。佐世保のよいところを家の人にリサーチしたり、観光地のパンフレットを集めたり、インターネットで検索する活動を通して、児童は今まで知らなかった佐世保のよさに気付くことができた。また、ハウステンボスや九十九島の美しさ、海の生き物、洞窟、食べ物等、広く興味関心を持ち、調べ活動を行った。調べたことをグループで情報を共有し、模造紙にまとめ発表することで、体験や情報を目的に合わせて再構成する力や、関わりを深め協力して課題を達成する力が高まった。

○自分史を画用紙シートにまとめる活動（4年・年間・学校・キャリア教育）

幼い頃の自分からこれまでの成長を実感するために、保護者に取材をして画用紙にこれまでの足跡をまとめることができた。そして自分の夢を実現するためには、どのような進路を選択し、どのような努力が必要なのかを調べ、将来の自分について考えることができた。

○ふるさと環境体験学習（4年・2学期・佐世保市内）

市の事業と組み合わせながら、ふるさと佐世保のよさを体験を通して学ぶ学習を行った。少年科学館では、天文学習やプラネタリウムを体験することで、科学への興味関心を深めることができた。学校の授業ではできないような実験や観察を見せていただいた。また、九十九島パールシーリゾートでの自然体験学習では、自然の素晴らしさを感じ、佐世保のよさに気付くことができた。ふるさと佐世保への愛着を深めるとともに、美しい佐世保の自然や環境を守りたいという思いを高めることができた。



【ふるさと環境体験学習】

○タブレットのスライド機能を活用したプレゼンテーションの作成（4年・3学期・学校）

I C T支援員にサポートしていただきながら、Google スライドを、自分の調べたことを発表するためのツールとして活用した。目的をもって活用することで、児童が主体的に I C Tを用いて学習を深めることができ、I C T活用スキルを向上させることができた。

○成長を喜び合う会（4年・3学期・学校）

児童がこれまでの10年間を振り返り、周りの人に支えてもらいながら成長することができたことへの感謝の気持ちを表す活動を行った。自分史をスライドで発表したり、保護者に感謝の手紙を書いたりする活動に取り組む中で、自らの将来について考えるとともに、今まで育ててくれた人々への感謝の気持ちが高まり、命の大切さについて実感することができた。

○佐世保大空襲について調べよう（5年・1学期・学校）

佐世保大空襲について、まず、タブレットや資料を使って当時の生活の様子や空襲の被害などを調べた。そのことで、佐世保で起こった戦争の悲劇についてしっかり認識することができ、6/29の「6.29 平和集会」において、全校に向けて、今まで学習してきたことを発表することができた。目的意識を持ってまとめることができ、工夫された内容に仕上げることができた。学習を通して、平和の大切さに対する意識が高まるとともに、体験や情報を目的に合わせて再構成する力が高まった。

○長崎原爆について調べよう（5年・1～2学期・長崎市内及び学校）

長崎への平和学習に向けて、原爆資料館から頂いた資料やタブレットを使って、長崎原爆について事前学習を行いながら、調べ学習を進めた。原爆の被害についてしっかり理解するとともに、長崎市平和学習の目的意識をしっかり持つことができた。また、6/16「平和学習」で長崎原爆資料館を訪ね、平和案内講師から展示物について説明を聞きながら学習を深めた。平和公園移動途中も、周辺施設について説明を受け、実物を見ながら平和についての思いをさらに強めていた。さらに、調べたことをグループごとにスライドにまとめ、発表し合うことで、戦争と平和について理解を深めることができた。学習を通して、自分たちが平和な世界を作っていくためにできることについて考えを深め、情報を発信していく力を高めることができた。



【長崎原爆について調べよう】

○わたしたちにできること（5年・3学期・学校及び地域）

1月に、6年生及び自分たちの将来について考えるとともに、これからの学校生活について自分たちにできることを話し合い、3月まで取り組む計画を立てた。2月には、校舎周辺や地域の公園の清掃活動を行い、自分たちで環境を整えるよさを実感することができた。3月には、校舎内の清掃活動や委員会活動の見直し、進級後の新入生への関わり方について学習を進めた。学習を通して、自分たちの生き方・在り方について見つめなおすとともに、人や地域のために役立つ喜びを味わい、自らの有用性や自己肯定感を高めることができた。

○運動会を成功させよう（6年・1学期・学校）

最高学年として、赤組白組のリーダーとして、どんな運動会にしたいかを話し合い、活動計画をたてた。応援合戦では、各組が盛り上がり、一つにまとまるような応援を学級全体で考え、下学年に教える活動を行った。応援団を中心に、応援合戦を通して、赤組白組をまとめることができた。また、各係の活動も、最高学年として中心になって行うことができた。学習を通して、児童一人一人が学校のリーダーとしての自覚を高め、最高学年としてふさわしい力と態度を身につけることができた。



【運動会を成功させよう】

○修学旅行を成功させよう（6年・2学期・福岡・佐賀市内及び学校）

2日間で、自分たちが学習、体験する施設やその場所での活動内容について班ごとに調べ、質問事項の作成や体験できることを確認し、しおりにまとめて情報を共有した。また、修学旅行で気付きなどを記録し、自分たちの調べた内容と照らし合わせ、ペープサートや紙芝居・模造紙などを用いて発表を行った。発表は授業参観で保護者に行うことで、レイアウトや伝えたい内容、自分たちが得た体験が的確に伝わったかを確認することもできた。学習を通して、課題に主体的に関わりながら、適切な方法で協力して解決していく力を高めるとともに、様々な人々と関わっていく力を高めることができた。

○福祉について考えよう（6年・年間・学校）

学級ごとに福祉の意義や小学生でなぜ学ぶのかということについて考えさせ、興味が高まるよう学習を行った。また、地域に住む高齢者に向け毎月手紙を書き、高齢者とのつながりを図った。さらに、佐世保市福祉活動プラザ職員を講師として招き、高齢者疑似体験を行った。装具をつけたり、杖や車いすを用いたりすることで、高齢者がどのような動



【福祉について考えよう】

きが難しいのか、高齢者にどのような補助を行えばよいかなどを実際に体験しながら学ぶことができた。学習を通して、高齢者の気持ちや思いを理解することができ、助け合いにより人を大切にしていくという思いを高めることができた。

(2) 「進んで学ぶ子の育成」を目指す活動

○読解力の向上を目指した校内研修の充実（全学年・年間・各教室）

昨年度より、本校では課題解決のための読解力の育成に全校を上げて取り組んできた。今年度は特に、国語科を中心に授業の中で読解力を高めるための仕掛けを仕組み、本時のめあてが達成されたか検証を行った。その結果、児童の主体的に学習に取り組む態度が高まり、年度末の業者学力テストにおいて、読解力の高まりが見られる結果となった。次年度も今年度の反省を踏まえ、課題解決のために主体的に表現し合う場面を仕組みつつ、更なる読解力の育成に向け、研究を深めたい。

